

## 拝殿

拝殿の中には、この神社の特徴を表す2枚の絵が掛けてあります。

1枚目の絵には、天鈿女命の最も有名な舞が描かれています。有名な神話で、天照大神が岩戸に隠れ、全世界が永遠の暗黒に包まれた際に、天鈿女命の舞い踊りに天照大神が誘われ出て、再び世界に光が戻ったというものです。この天鈿女命の舞が高千穂で行われる神道歌舞、神楽の起源とされています。

2枚目の絵には、天鈿女命と猿田彦命の初めての出会いが描かれています。日本神話によると、この二神は、天上で出会ったと記されています。高天原から天孫降臨する際、神の一行の行く手に立っていたのが、国津神の猿田彦命でした。か弱いけれど勇気があるとされていた天鈿女命が、その神に名を尋ねました。そうして、猿田彦命は降臨する神の一行の道案内を申し出ました。

高千穂伝説によれば、二神は、初めての出会いでもとても惹かれ合い、すぐに結婚することを決めました。周囲から切り出したばかりの荒い（日本語「アラ・い」）、十分に乾燥していない荒木（日本語「アラ・キ」）を集め、新しい家を建てました（（日本語「タテ」）。荒立神社は、命を祀る社も白木造りとし、早急に建てたことから、荒立（荒建）神社と名付けられたといわれています。

## 板木

神社の境内、特に小道沿いと林の中には様々な板木が吊るされています。木槌が設置しており、それぞれの板木を7回打つことによって願いが叶うご利益があるとされています。七福德寿板木は、入口のそばにあり、心を込めて7回叩くことで7つの願いが成就するとされています。他には、治癒、開運、恋愛の板木もあります。